

## ファミリア(共同生活援助)

管理者 白井義博

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年6月より開所しあつと言う間に半年が過ぎました。利用者様の方々に「快適で安全かつ当たり前の暮らしを提供する事」をモットーに日々精進しております。

日曜日の日中では、赤穂市内のボランティアグループの方々の協力のもと、音楽活動、折り紙体験やマジックなど余暇活動の楽しみを広げるイベントも開催しました。

小規模ですが月に一度の季節的なイベントも開催しながら、今後も利用者様にとって楽しい家になるよう職員一同力を合わせて取り組んでまいります。



日曜日にも楽しいよ!

“ボランティアグループ”  
ドレミさんによる音楽活動



折り紙活動

## ぱいろっと(相談支援)

管理者 前田康裕

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、新春を清々しいお気持ちでお迎えの事とお喜び申し上げます。

昨年は多くの方々のお力添えをいただき誠にありがとうございました。

ようやく落ち着くかと思われた新型コロナウイルス感染症ですが、新たな変異株が出現する等依然として予断を許さない状況が続いております。

今一度気を引き締め直し、一日も早く以前のような穏やかな生活が送れるよう引き続き感染予防に十分留意していきたく思っております。

さて、「相談支援事業所 ぱいろっと」も早いもので今年の4月に丸3年となり、4年目を迎える年となります。「石の上にも三年」ということわざもございますが、暗中模索の中、皆様のお力添えで何とかここまでやってきて、ようやくやるべき事が見えてきたと同時にたくさんの課題も見えてきた所でございます。

今年は『変革の年』と位置付け、より多くの方により質の高いサービスが提供出来るように努めて参ります。質の高いサービスを提供する上で欠かせない考え方に「アドボカシー」というものがあります。今回は「アドボカシー」について少しお話させていただきます。

「アドボカシー」とは、『権利擁護』と訳され、利用者の方が自分の要求を表明できない場合に支援者がそれを代弁する機能の事なのですが、あくまでも支援者は利用者様の自己決定をサポートする立場である事を認識しておかなければいけません。支援者の強い義務感や思い込みや自己判断で利用者様に自分の考えを押し付けないようにする事が権利を擁護する事になります。

これからも支援する立場としてしっかり利用者様に寄り添い、自立に向けて質の高いサービスが提供出来るようにしていきたいと思っております。

**編集後記** 今年は寅年!何か新しいことにトライしたいと思っております。法人ホームページにブログ機能が追加されました。各事業所からのお知らせや活動の様子をお知らせできればと思います。また「耳よりハンター」というカテゴリでいろいろな情報も発信予定です。ぜひ覗いてみてくださいね。 文責:津浦

社会福祉法人 緑樹福祉会

第6号 令和4年1月

# 緑樹福祉会だより

赤穂市大津 1041

TEL 0791-45-2240

FAX 0791-56-9000

<http://www.ryokuju-fukushi.com/>

理事長挨拶

理事長 三村佳壽子

明けましておめでとうございます。

昨年中は当法人の事業にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

今年も新型コロナウイルス感染症拡大の中、新年を迎えることとなりました。各事業所の利用者、ご家族、職員の皆さまが感染することなく事業継続させていただく事ができました。ご家族、職員の皆様のご努力に改めてお礼申し上げます。

昨年は市内新田地区に共同生活支援事業グループホーム「ファミリア」が完成し入居者5名、体験者2名の方々が新たな生活を始めることができました。ご理解ある地域の皆様、ご支援をいただきました多くの方々に深謝申し上げます。

昨今「共生」ということばを耳にする機会が増えてきました。「共生社会」とは、障がいがある、ないにかかわらず、老若男女問わずすべての人がお互いの人権や尊厳を大切に思い支え合い、生き生きとした人生を送ることができる社会です。障がい者が差別や暴力を受けたり、特別な目で見られたりということはあってはならないことです。また、一方的に助けられる存在であるとか、かわいそうな存在だとみられるのはまちがいです。共生とは本質的には「相利」「片利」「寄生」となるようですが、生物学的には共生はそれらを対立概念ではとらえてはいません。「共存」と「敵対」、「相互扶助」と「搾取」、「従属」と「支配」などの対立的言語にとられることなく、負の言葉(敵対、搾取、支配)を捨て正の言葉(共存、相互扶助、従属)による社会の構築を障がい者はじめすべての国民が押し進めなければいけません。

そして、「共生社会」というまるで理想郷のような耳障りの良い言葉を具体化し、現実的なものとし、段階的に進めていくために何から始めなければならないかの答えを探し当てる努力を傾注してまいります。

当法人では、日中活動の「わかば園」「てくてく」夜間活動の「ぷくぷくほーむ」「ファミリア」、そして相談支援の「ぱいろっと」と24時間支援は整いました。今年はいくつか増して充実した支援、サービス提供の為、事業の在り方、支援の在り方を捉えなおすことを恐れず進めて参ります。

職員の皆様には当法人の理念である「自由で平等な当たり前の暮らしの実現」を把握し障がい者支援の基本を学ぶ機会を増やして参ります。

結びにあたり、本年が、新型コロナウイルス感染症の拡大が収束し、皆様にとって平和で未来に向けた輝かしい年になりますことを心より祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。





新年、明けましておめでとうございます。

ご家族の皆様にはわかば園の活動にご理解とご協力いただき、ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症が少し落ち着いたと感じたのも、つかの間、オミクロン株の拡大も懸念されています。

その為、恒例の行事が次々と中止になり、園での感染対策が一段と必要となりました。

食事時のパーテーションの使用、又三密を防ぐ為にクリスマス会、新年会と、就労、生活介護、とらっきーと、それぞれの部屋で行うなど工夫しました。

本年も感染対策を十分にいき、利用者様と充実した日々を送れる様に取り組んでまいります。

生活介護のみんなで作ったよ！

壁画



<就労継続支援B型>

令和3年度は新しい利用者様が2名増え、活気づいています。コロナ禍で、関西福祉大学喫茶タイムが休業になり、工賃が減りましたが育成会様に寄付をいただき、何とか利用者様に通常の工賃をお支払いすることが出来ています。保護者様からもご家庭の草抜き、障子の張替等の仕事をいただき本当に感謝しております。コロナ禍で帰省できないお客様からお墓の掃除の仕事も頂きました。

又、家族会からの寄付で就労の部屋に棚を購入させていただき、観葉植物を置いたことで部屋の雰囲気も明るくなりました。

本年も試行錯誤しながら、少しでも利用者様に多く工賃の支払いが出来るように職員一同、精進してまいります。

<生活介護>

コロナの影響で行事が減ったこともあり園内で楽しめる活動内容を考えました。その中でも個々との関わりの部分を増やしたいと考え、スケジュールの見直しをしました。音楽を好きな利用者さんが多いので、毎日の音楽活動を加えました。初めは楽器を手にしなかった利用者様が楽器を持ち、又指揮をしたい利用者様も出てきて意欲的に参加されています。

又部屋の模様替えをしました。部屋を変えることで集中しやすい環境もでき、活動を楽しまれています。

気候の良い時期には朝夕とウォーキングに行きました。自由時間には個々が楽しめる事を考え、ご家庭と相談し、本人様が好む折り紙、塗り絵、パズル等を用意していただき、利用者様に選択していただいた活動をしています。

今年度も職員一丸となり、邁進していきます。

プレゼントは何か？

クリスマス会



新年あけましておめでとうございます。

保護者の皆様には、てくてくの活動にご理解とご協力を頂きありがとうございます。

子ども達の元気な声や挨拶とともに、新しい年がスタートしました。「初詣行ったよ。」「おせち料理たべた！」「雪であそんだ」と話を聞くことができ、久しぶりに楽しいお正月を過ごし表情も穏やかになったように感じます。昨年10月より、様子を見ながらですが「買い物学習」「公園（身体を使って）」等を再開し、活動範囲も広がってきました。このような活動ができるのも、ひとえにご家庭での健康管理のおかげと感謝しております。

今後も安全で楽しく過ごせ、ご家族が安心してご利用いただけるよう、引き続きマスク着用をお願いし改めて換気・消毒を丁寧に行うよう、職員一同努めてまいります。



すごろく



壁画



ふくわらい

今年の抱負や願いを込めて...



あけましておめでとうございます。

旧年中はひとかたならぬご愛顧を賜り、ありがとうございました。

本年もよろしくお願い致します。

利用者様同士が楽しく、安全・安心して利用していただける様に、細心の注意をしながら日々の業務を送っております。

また、新型コロナウイルス感染等、最新のウィルス防止対策として、換気、手の消毒、うがい等を行い、日々の生活を送っております。

一人一人の利用者様が楽しく過ごし今より少しでも満足してもらえるよう、それぞれに合った過ごし方を、より細やかに、具体的に行えるように日々努力してまいります。